

本を読むのが好きです。人間が主人公の話でも、出てくるペットや動物が魅力的な本は沢山ありますよね。そういう本の中から、私のお気に入りを3冊ご紹介します。



【夏への扉】 ロバート・A・ハインライン (ハヤカワ文庫)

冷凍睡眠と時間旅行を扱ったSFの名作。でも、SFの部分は気にしないで。この本が大好きで何度も読んでいる私もその辺の筋はろくに覚えていないですから(笑)

この本は出だしの2~3ページが素晴らしい。主人公が牡の飼猫ピートについて語っている部分です。読めば、どうして「夏への扉」という題名なのかも分かります。猫好きさんならきっと納得ですよ。親友と恋人に裏切られた主人公。でも、猫のピートだけは絶対に失いたくない、どんな事をしてでも取り戻したいと願い、時間旅行までも試みる。だって猫は裏切らないですものね。裏切るのは大概人間の方だもの。



【かたみ歌】 朱川湊人 (新潮社)

東京下町にあるアカシア商店街。そこで起こったちょっぴり不思議な出来事を綴った短編集。

お薦めは「ひかり猫」。

昭和45年。アカシア商店街近くの木造アパートで貧しい日々を送っていた、漫画家志望の「私」が出会った「猫」の話。切ない物語。

この話を讀んだ後は、空地や路地で見かける“ふてぶてしい顔をした野良猫”を見る眼が変わってしまうかも知れませんよ。



【100回泣くこと】 中村航 (小学館)

恋愛小説です。でも、読んでいて気恥ずかしくなるような甘い物語ではなく、喪失を、失ってもなお心に残るものを描いた物語。

主人公の「僕」が浪人時代に拾ってきて飼いだめた雑種犬ブック。進学し就職し恋人も出来た「僕」に母親から電話があった。ブックが死にそうだと。「僕」は彼女の勧めに従い、バイクが好きだったブックの為にバイクで実家へと向かった。ブックは持ち直し、3年後静かに息を引き取った。「僕」はブックの亡骸をバイクで運び埋葬する。けれど「彼女」はもう僕の傍にはいない。

主人公が愛犬を埋葬する場面では(埋葬場所は問題ありだと思ったけど)幾度ものペットとの別れが思い出され、涙がこぼれました。ブックは幸せな一生だったよね。

ペットトータルケア サービス

芦屋パティーズ

ペット用車いす・介護用品販売/
訪問介護/シッター/お散歩代行

**困ったときのパートナーの
お世話はお任せください**



〒659-0065 芦屋市公光町9-4 アルコーブ芦屋301

店舗 10:00~18:00、日曜定休 訪問介護/シッター/お散歩代行 年中無休

ホームページは、、、

0120-580811

芦屋パティーズ

Switch on Dogs!

Cafe

スイッチオンドッグス!カフェ

〒659-0076兵庫県芦屋市清水町7-15
Tel/Fax. 0797-23-6552
Open. 11:00 - 19:30 (L.O.19:00)

カフェ営業日 金・土・日・祝のみ

